

学年	教科等	題材名	日時
第4学年	音楽科	言葉でリズムアンサンブル	令和6年2月9日(金)

1 本時の目標

呼びかけとこたえや変化を用いて、表現したいリズムアンサンブルへの思いや意図を連鎖させることができる。

2 指導過程

学習活動及び学習内容（★は評価にかかわるもの）	「自律的に学ぶ」ための手立て																																																																								
<p>1 前時にそれぞれでつくったリズムを確認し、本時のめあてを設定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ リズムの組合せ ○ 本時のめあて <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>様々なリズムの組合せを試し、グループで表現したいリズムアンサンブルを考えよう。</p> </div> <p>2 学習内容を確認し、見通しをもつ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> </div> <p>3 様々なリズムの組合せを試し、グループで演奏するリズムアンサンブルを決定する。（★）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ リズムの組合せ <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>〈リズムの組合せの例〉</p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td>たつ</td><td>まき</td><td>●</td><td>●</td><td>●</td><td>●</td><td>●</td><td>●</td><td>●</td><td>●</td> <td>たい</td><td>ふう</td><td>た</td><td>つ</td><td>ま</td><td>き</td><td>たい</td><td>ふう</td> </tr> <tr> <td>●</td><td>●</td><td>●</td><td>●</td><td>●</td><td>●</td><td>●</td><td>●</td><td>●</td><td>●</td> <td>た</td><td>—</td><td>い</td><td>—</td><td>ふ</td><td>—</td><td>う</td><td>—</td> </tr> <tr> <td>たつ</td><td>まき</td><td>たつ</td><td>まき</td><td>●</td><td>●</td><td>●</td><td>●</td><td>●</td><td>●</td> <td>た</td><td>—</td><td>い</td><td>—</td><td>ふ</td><td>—</td><td>う</td><td>—</td> </tr> <tr> <td>●</td><td>たつ</td><td>まき</td><td>●</td><td>たつ</td><td>まき</td><td>●</td><td>●</td><td>●</td><td>●</td> <td>た</td><td>い</td><td>ふう</td><td>●</td><td>●</td><td>●</td><td>たい</td><td>ふう</td> </tr> </table> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・「前半は呼びかけとこたえのリズムを集めて、後半は雰囲気を変えていきたいな。」 ○ 2つの音楽の比較 ・「この組合せの方が、音楽が変化しておもしろい感じがすると思うよ。」 ○ 音楽の決定 <p>4 できた音楽を基に、リズムアンサンブルを練習し、録音する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ リズムアンサンブルの練習 ・「お互いにもっと聴き合いながら演奏すると、みんなのリズムが合うと思うよ。」 ○ リズムアンサンブルの録音 ・「ぼくが手拍子をするから、みんなはそれに合わせて演奏してみてね。」 <p>5 本時学習をふりかえり、次時への見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ リズムアンサンブルをした感想 ○ 次時の見通し 	たつ	まき	●	●	●	●	●	●	●	●	たい	ふう	た	つ	ま	き	たい	ふう	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	た	—	い	—	ふ	—	う	—	たつ	まき	たつ	まき	●	●	●	●	●	●	た	—	い	—	ふ	—	う	—	●	たつ	まき	●	たつ	まき	●	●	●	●	た	い	ふう	●	●	●	たい	ふう	<p>○ 子どもがつくった2種類のリズムを、順番を入れ替えながら全員で演奏させることで、様々なリズムの組合せを試したいという思いを引き出し、本時のめあてを立てることができるようにする。</p> <p>○ 左記のようにピラミッドチャートを使って、子どもと一緒に本時の学習内容を確認していくことで、どのような流れで学習していけばよいのかを視覚的に把握し、学習の見通しをもつことができるようにする。</p> <p>○ 以下のような活動を設定することで、組合せ方についての思いや意図を連鎖させながら、リズムアンサンブルをしたい音楽を選ぶことができるようにする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ① 2小節のリズムを組み合わせて8小節の音楽にする。 ② ①を異なる組合せでいくつかつくる。 ③ ②を聴き比べながら、アンサンブルをしたい音楽を2つに絞る。 </div> <p>○ リズムの組合せが思い付かないグループには、いくつかの組合せを例示することで、それらを聴き比べて、決めることができるようにする。</p> <p>○ 音楽を2つに絞った後、それぞれの範奏を何度も聴き、演奏して比較させることで、範奏をよく聴いて正確に再現しようとし、呼びかけとこたえや変化のよさ等が伝わる方の音楽を選ぶことができるようにする。</p> <p>○ 範奏や仲間の演奏を真似させることで、音楽の細部までよく聴いて演奏することや、仲間の表現を客観的に捉える力を付けることができるようにする。</p> <p>○ 拍を打ちながら練習しているグループを取り上げ、その練習方法を全体で共有する場を設定することで、同じ速さで演奏する大切さに気付き、正確な速さで演奏することができるようにする。</p> <p>○ リズムアンサンブルが上手いかないグループは、パートごとにリズムを確認してから合わせて練習させることで、それぞれのパートを正確に把握してアンサンブルをすることができるようにする。</p> <p>○ 次時は、学級全体でリズムアンサンブルをつなげて全員で演奏することを伝えることで、新たな思いや意図をもって、次時に臨むことができるようにする。</p>
たつ	まき	●	●	●	●	●	●	●	●	たい	ふう	た	つ	ま	き	たい	ふう																																																								
●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	た	—	い	—	ふ	—	う	—																																																								
たつ	まき	たつ	まき	●	●	●	●	●	●	た	—	い	—	ふ	—	う	—																																																								
●	たつ	まき	●	たつ	まき	●	●	●	●	た	い	ふう	●	●	●	たい	ふう																																																								

3 本時の評価規準

呼びかけとこたえや変化を用いて、リズムの組合せを試したり、実際に演奏をしたりして、表現したいリズムアンサンブルへの思いや意図を連鎖させている。 (思考・判断・表現) 【映像・記述分析・行動観察】

4 板書と当日の子どもの様子



5 指導講評

宮崎県教育庁 義務教育課 石川 優子 主幹

- ・ よりよい音楽をつくるために、「ああでもない。こうでもない。こうしたらどうかな。」と話し合いや練習を重ねるなど、「どうすればよりよいものをつくることができるか」ということを、自分たちで試行錯誤し、調整する場面が見られた。
- ・ 「呼びかけとこたえ」や「変化」について、子どもたちが十分に理解したうえで活動を行うことができているかということが課題である。教師が「何を教えるか」「子どものどのような資質・能力を育成したいのか」ということを明確にしておき、そのための手立てを取っていく必要がある。

6 考察

- 「呼びかけとこたえ」と「変化」のそれぞれのよさについて、子どもが十分に理解しないままに授業を進めてしまったため、思いや意図を連鎖させる場面においても、「呼びかけとこたえ」と「変化」をテーマに話し合いをすることができていなかった。音楽を形づくっている要素等の学ばせたいことについては、別の題材を活用するなどして、十分に子どもにそのよさを実感させておく必要がある。
- つくった複数の音楽を聴き比べたり演奏したりすることで、それぞれの思いや意図を連鎖させながら、グループで演奏したい音楽を選択させることはできた。今後は子どもの思いや意図の連鎖を基に、より豊かな表現にたどり着くようにさせるために、他の題材でも子どもの思いや意図を基に、より豊かな表現をするための指導方法について検証していきたい。
- タブレット型端末の録音機能を活用し、自分たちの演奏を何度も聴く活動を設定したことで、表現を客観的に捉えることができるようになるための力は付いてきたと考える。音楽的な視点をもって自分たちの表現を聴いたり、活動をふりかえり、次の思いや意図を生み出すために、表現を客観的に捉えたりすることができるような力を育成する必要がある。